甲状腺外科草子 62

祈念の万年筆：甦る思い

杉野　圭三

万年筆は文字通り長期間使用可能な文具である。日常の手入れを怠らず、継続して使用する限りトラブルは稀である。そのような理由で昔から記念品として贈られることが多かったようである。

しかし、万年筆に興味がない人にとっては取り扱いが難しい文具でもある。時々、筆先の洗浄が必要だし、長い間使用せずに放置するとインクが固着し悲惨な状態となる。

兄からのモンブラン 149（1978）

最初に万年筆を贈られたのは兄からの大学卒業祝いであった。モンブランの中でも最高峰の「マイシュターシュティック 149」である。　頂いてから 45 年間、年賀状やここ一番の時に使用している。

ペン先にはモンブランの標高 4810 が刻まれ、最高の書き味と評価され、多くの文人の原稿などに使用されてきたが、日本人の手にはやや太すぎるようである。

妻からのプラチナ 3776（1996）

外科医になってからは勤務中に使う筆記具は長年使い捨てのボールペンであったが、大学講師に昇任した時に妻から万年筆を贈られた。当時、生協がセミオーダーで注文を受け付けていた「プラチナ 3776」である。書く時の筆圧、ペン先の使い方（45 度ぐらい寝かせて書くか、立てて書くか）などの書き癖を注文できるオーダーの仕方であった。正直、あまり期待していなかったが、届いて書いてみて驚いた。万年筆としては比較的安い価格帯だが、最高の書き味で軸のバランスも良いものであった。「3776 シリーズ」は御存知の通り富士山の標高を掲げるプラチナ万年筆自慢の製品である。ペン先の大きさと絶妙な硬さはマニアの間で高く評価され、価格帯も納得できる逸品である。

この万年筆を知ったことにより、私の万年筆遍歴が始まった。現在、妻は後悔しているかもしれない。

娘が得た最初の給料でプレゼントしてくれたのは、「セーラープロフィット」である。普通のペン先ではなく、なんと「コンコルドのエンペラー付き」というマニア垂涎ものである。セーラーの至宝と言われた「長原宣義」作のペン先は多種多様であるが、このコンコルドは形状が特殊で下に湾曲している。ペン先を寝かせて書く癖のある私には少々使いにくく、後に「セーラーペンクリニック」で調整いただいた。

娘からのプロフィットコンコルド（2007）

万年筆好きが周囲に認知されるに従い、万年筆を贈られることが多くなり、逆に贈り物の相談を受けることも増えてきた。万年筆を贈る時に悩むのは、使う人の使用頻度、使い方、手の大きさ、癖などであるが、本人に直接聞くしかない。人によってはボールペンやシャープペンの方が喜ばれることも多い。

スタッフからの還暦祝い（セーラープロフィット蒔絵とペンケース 2014）

還暦祝いにスタッフから頂いた万年筆やペンケース（パイロットのソメア）は毎日使用し、程良い使用感が出ている。

使用するたびに贈っていただいた人々への感謝の念が甦るのが記念万年筆の良いところであろう。

（　一甲状腺外科医の徒然なる随想　）

2023 年 4 月 12 日